

平成26年度愛知県がんセンター公開講座(第6回)のご案内  
「泌尿器科のがん治療(主に前立腺がんに対する治療戦略)について」  
= 平成27年2月22日(日)開催 =

< 講師からのメッセージ >

「前立腺がんの疫学と予防」

日本では前立腺がんは男性のおよそ14人に1人が一生のうちにかかると言われており、毎年5万人以上の方が前立腺がんと診断されています。日本では男性で4番目に多いがんですが、欧米では最も多いがんです。日本においても、過去20年で最も増加したがんであり、今後とも急激に増加していくことが予測されています。公的統計データや最新の研究データなどを用いて、前立腺がんのなりやすさ・予防法・早期発見などについてお話しします。

疫学・予防部 主任研究員 尾瀬 功

「前立腺がんの診断と治療～外科治療と内分泌治療～」

前立腺がんには、PSA(前立腺特異抗原)という感度の高い腫瘍マーカーがあり、スクリーニング検査に用います。確定診断は、前立腺針生検を行い、組織学的に判定します。前立腺がんと確定診断された場合には、MRI、CT スキャン、骨シンチで病期診断を行います。前立腺がんの治療方法としては、外科治療(根治的前立腺全摘術)・放射線治療(外照射法と組織内照射法)・内分泌治療(血液中の男性ホルモンを下げる治療)・化学療法(抗がん剤治療)などがあります。その中でも外科治療と内分泌治療について話します。

泌尿器科部 部長 林 宣男

「前立腺がんの放射線治療」

放射線治療は数多くある前立腺癌治療の一翼を担っています。その放射線治療にも色々な種類があり、それぞれに特色があります。比較的早期の病変から局所進行癌まで、状況に応じた適切な治療を駆使することで幅広い状況に対応できます。いずれの方法にも共通しているのは、侵襲が少なく身体に優しい治療法であることです。根治を目指す治療だけでなく、他の臓器に転移してしまった病変に対しても症状を緩和するためにも活用されています。今回はこのような放射線治療につきわかりやすくお伝えすることが出来ればと思います。

放射線治療部 医長 立花 弘之